

活動実績（2021年12月～2022年5月）

【地域活動】

● 自然と環境の学習の場創り事業
・緑化活動：南岸12/11(土)、2/12(土)、3/12(土)、5/14(土)、北岸1/8(土)、4/16(土)

● 出前講座

・沖縄大学問題発見演習(春田ゼミ)「国場川と水辺の環境」：12/1(水)
・ELO赤土等流出防止対策実践バスツアー@宜野座村・金武町：12/18(土)
・琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会「宮古島の水利用ツアー、施設見学、意見交換会」：3/23(水)～3/24(木)
・アサト・ヨザ・ナカザ地域資源保全の会

第1回地域資源保全講座「地下水保全を目指した八重瀬の農業とは」：5/10(火)
・沖縄キリスト教学院大学「NGO・NPO論」：5/25(水)
・美ら夢こども園「公園の自然とホテルの観察会」：5/28(土)

● 団体受入

・廿日市西高等学校：12/8(水)
・乙訓高等学校：12/13(月)
・JOCA沖縄：2/24(木)
・神戸商業高等学校：4/22(火)

【国際協力】

● 受託事業

・JICA研修員受入事業：日系社会研修「沖縄のツーリズム・ストラテジー」：1/14(金)～2/12(土)
・JICA研修員受入事業：課題別研修(遠隔研修)「2021熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営(B)」：1/11(火)～2/26(土)

活動計画（2022年6月～11月）

【地域活動】

● サガリバナ観賞会：国場集落、末吉公園
いずれも実施未定

● 自然と環境の学習の場創り事業

・緑化活動：南岸6/11(土)、以降、北岸or南岸で毎月開催予定

● 団体受入

・東海大学附属大阪仰星高校中等部：6/21(火)
・トヨタソーシャルフェス：7/9(土)、11/5(土)

● 水辺講座

夏休み期間中に児童クラブなどを対象に開催予定

● 水環境セミナー

八重瀬町と多良間村

で開催予定

● 八重瀬町・琉球大学JST SOLVE for SDGsプロジェクト：夏休み期間中にサマースクール開催予定

● イベント出展予定

・県民環境フェア
・おきなわ国際協力・交流フェスティバル

報告⑤

水辺の環境ボランティア

一部コロナによる変更がありつつも、2021年度も無事に毎月の活動を実施することができた。多くの方が参加した12月と3月の活動について報告する。

12月には100名近くの参加者が集まり南岸河川敷のごみ調査とクリーンアップ活動を実施。ごみ問題に対する関心の高さを実感した。

また3月の植栽活動では多くの子ども

お知らせ

会員・ボランティア募集

● 入会申し込みは、ホームページから。
● 緑化活動をお手伝いして下さるボランティアを随時募集しております。お気軽にお問い合わせください。

もと大人と一緒に活動し、OECの理念でもある「子どもと大人が共通の実践と体験を通して自然環境への理解を深めていく」様子を見ることができた。

達人デリバリー（出前講座）

ミライへ・プロジェクト（団体受入）

● 申し込み、問い合わせはこちらまで！

TEL 098-833-9493

e-mail gyomu@np-oec.com

今年度も楽しいワークショップなどを企画していくので、お楽しみに！

（研究員 金城明子）



漫湖南岸遊歩道沿い緑地帯で在来植物の植栽活動

特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ



〒902-0075
沖縄県那覇市字国場370番地307号室
TEL 098-833-9493
FAX 098-833-9473



ホームページ

www.npo-oec.com

e-mail kokuba@np-oec.com



www.facebook.com/OkiEnv



～ 自然と環境の保全是足元から～
特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ(OEC)

vol. 38
2022年6月発行

【1面】
● 児童クラブの皆さんと一緒に
● 宮古島の添道サガリバナ群生地

【2面】
● 地域資源を用いた授業案
● サポーターの声
● 赤土等流出防止活動体験ツアー
● 第1回地域資源保全講座

【3面】
● マングローブのつづき
● 団体受入
● 出前講座

【4面】
● 活動実績
● 活動計画
● お知らせ
● 水辺の環境ボランティア

表紙の植物 サガリバナ

日本では奄美を北限として自生する水辺植物。日暮れが近くなると白く膨らんだつぼみがほころび、白やピンクの雄しべが顔を出す。



パリンとニマニマ 〓(B) 2022

トピック② 宮古島の添道サガリバナ群生地

夜に咲き朝に散るサガリバナは、初夏に開花のピークを迎える。群生地では、毎年10日間、開花をライトアップする「夜のお花見」を私が主宰する



満開のサガリバナ(夜から早朝まで楽しめる)

トピック① 児童クラブの皆さんと一緒に

近年、OECと地域の児童クラブとの連携がますます充実してきた。中でも、2020年度事業で作成した環境学習教材の体験と現場での環境保全活動をセットにした取り組みが好評だ。

教材体験を通して子どもたちの「沖縄の自然環境のために何かしたい」という士気の高まりを見ることができるが、その受け皿となる場

また児童クラブの先生方からもたくさんの学びを得ている。子どもたちにもいろんなことを経験させたい、自然環境を守る心を育みたいという思いは互いに共通している。

今後も、児童クラブとの連携をとりながら、地域での実践の充実を図っていききたい。

（研究員 金城明子）



木の実拾いを楽しんだよ

そえどう

宮古島の添道サガリバナ群生地

宮古島環境クラブ（MEC）が開催しており、今年は6/25（土）～7/4（月）に10回目を予定している。

「夜のお花見」には、毎晩、地元をはじめ観光客も大勢訪れ、今や宮古島の夏の風物詩として定着した。ここは散策が容易なことから、小さい子どもから車いすの方まで、特に高齢者に大人気だ。

群生地には小川（水路）が流れ込む沈砂池があり、その兩岸に自生の株が約100本、旧平良市が植えた遊歩道並木の約

150本、OEC・MECが植えた斜面の約350本など、計約600本のサガリバナが生育している。

ここは、現在土地組合員の共同登記地になっており、組合解散後に宮古島市へ移管されとのこと。移管までの間、OEC・MECは市と約束してここを管理している。21年前のサガリバナ並木造成の後、生育管理を旧平良市村づくり課から懇願されたのがきっかけである。

毎月、那覇から宮古島の添道へ通い、サガリバナ並木の木陰に一人たたずみ、大きく生長した姿を眺めて悦に入っている。

（会長 下地邦輝）

トピック③ 地域資源を用いた授業案

OECが2019年度から受託している琉球大学のSOLVEプロジェクトでは、昨年度、八重瀬町内の小中学生を対象としたサマースクールを開催するために、4つのテーマで8つの学習プログラムを開発した。新型コロナの感染状況が悪化したため、残念ながらサマースクールは中止になってしまったが、開発したプログラムを基に、八重瀬町内の小中学校の授業で活用できるような学習指導案を作成した。

指導案作成にあたっては、琉球大学教職大学院の藏満逸司准教授のアドバイスをいただき、学校の先生が特別な授業枠を準備することなく地域の素材を使った授業を行うことができるように工夫をした。

指導案には、授業でも使ってもらえるビデオ教材や、授業に必要な写真資料などもセットになっている。

今年度は、この指導案を実際に先生方に使ってもらって、より良い指導案に



有孔虫の採集方法の教材ビデオ

仕上げていく予定である。

先生の視点から学習プログラムの内容を考えるよい機会をいただいて感謝している。

(事務局長 立田亜由美)

トピック④ サポーターの声：小禄南児童クラブ 仲宗根尚美さん



渡慶次先生と仲宗根先生(右)

OECの活動に積極的に参加いただいている小禄南児童クラブを取り仕切っている仲宗根先生は、同児童クラブに30年間に在籍している指導員だ。

2018年に開催した水辺講座参加をきっかけに出会った。「コロナ禍で色々な活動が制限されている中、その環境に適応している子どもたちはエライ!」とおっしゃる仲宗根先生。「自然に触れ合う楽しめとともにボランティアに参加する意義を子どもたちに伝えてほしい」ともおっしゃっていました。今後もOECと子どもたち、双方が楽しみながら活動できる環境を作っていきます。

(研究員 高嶺正満)

報告① 赤土等流出防止活動体験ツアー



グリーンベルト植栽の様子

12月18日(土)、第3回バスツアー(宜野座村・金武町)を開催した。このバスツアーは沖縄県から受託している赤土等流出防止対策実践ツアー委託業務の一環で、県内都市部住民を対象にした楽しく学べる内容となっている。ツアーの最後にアンケートをとっているのだが、その結果からツアー前後で赤土に対する参加者の意識の

変化を見ることができた。この意識の変化が参加者の家族や友人に共有されることで、赤土問題の解決が進展することを願う。

(研究員 高嶺正満)



下地会長が講師を務めた



第3回赤土等流出防止活動体験バスツアー(宜野座村・金武町)での集合写真

報告② 第1回地域資源保全講座

OECは、2019年度から関わっている琉球大学のSOLVEプロジェクトをきっかけに、八重瀬町具志頭地区の水資源が地域でどのように使われているのかに関心を持ち、独自に毎月地下水や河川水の水質調査を継続してきた。

5月10日(火)に開催されたアサト・ヨザ・ナカザ地域資源保全の会の第1回地域資源保全講座に会長の下地が講師として招かれ、その調査結果の報告や、八重瀬町の水資源の活用方法について、地域の方々と意見交換を行った。

講話では、八重瀬町の地下水中の硝酸態窒素濃度が様々な努力により減ってきていること、硬度が高いこと等を報告した。また、現在、活用されていない

コラム マングローブのつぼやき~その20~ 国場川の水がきれいになったのは何故か？

復帰後50年で変わったことの一つに沖縄の川や海の水環境、その水質が大きく改善されたことがある。その代表例として国場川の水がきれいになったことである。沖縄の川の汚れは①生物化学的酸素要求量(BOD)値で示される有機質汚濁、②水の濁りと堆積を起こす赤土等の水質汚濁、③死魚事例や生物の体内に有害物質が蓄積する有毒・有害物質汚染がある。国場川では①②③すべてが起きた。

昭和60年代初頭にはBODの全国



川底ヘドロのティラピアの巣

ワースト5に沖縄の3河川が入っていた。その筆頭が国場川で、下流の真玉橋でBODが50mg/ℓを超えていた。その汚れの原因は、無処理のまま国場川へ大量に流れ込んでいた流域の豚舎と生活排水のためだった。河口干潟「漫湖」へ自浄作用を超える有機質が流れ込み、酸素不足のヘドロが堆積し、ドブや泥の匂いがした。

「国場川が匂わなくなった」と言われて久しい。そのわけは、復帰後50年で(1)日本の法律(環境基本法や水質汚濁防止法など)が施行されたこと、(2)

報告③ 団体受入

12月8日(水)と12月13日(月)、街なかにありながら多くの自然が残されている末吉公園において、県外からの修学旅行生を対象に団体受入を実施した。参加者は自然環境や沖縄独自の歴史・



ガイドの様子

文化について専門ガイドの説明を受けながら亜熱帯の森の中を歩くという非日

報告④ 出前講座

2021年度は地域のこども園から大学まで、さらには研究会や個人グループと、様々な団体を対象に11件もの出



糸満市立高嶺小の出前では嘉手志川(湧水)と地域のつながりを考えた

国道329号の建設と県条例規制による豚舎の移転や廃業、(3)流



死魚事例も多発した

域下水道の普及が考えられる。国場川に流れ込む有機質の量が減ったことで、2020年度の真玉橋ではBOD(75%値) 2.8 mg/ℓの水質になった。

今、国場川河口の漫湖では、流域から流れて来た「川岸の漂着ごみ」と「川底の土砂流入・堆積」がマングローブのせいにされ、悪者になっているようだ。

(会長 下地邦輝)



サメに食いちぎられた漫湖のミナミクロダイ(水がきれいになった証拠)



ガイドの様子

常の体験を通して、自然の楽しさや大切さを実感しているようであった。未だコロナ禍が収束しない状況ではあるが、今後も楽しく学べる環境学習プログラムを提供していきたい。

(研究員 高嶺正満)

前講座を実施した。定例になりつつある講座だけでなく、ホームページ等でOECの活動を知ってお申込みいただいた方もいて、これまでの活動の積み重ねを実感している。手法も実験や体験を組み込んだり、オンラインで実施したりと実に様々だ。ぜひ、より多くの皆様の環境学習やCSR活動等にOECの講師派遣をご活用いただきたい。

(研究員 金城明子)